二〇〇二年度（平成十四年度）博士論文「『孫子』の構造と編纂過程」附表

立命館大学大学院　文学研究科　東洋文学思想専攻　石井真美子

附　表

凡　例

一、この表は『孫子』十三篇を篇ごとに分章を加え（第一欄・大文字アルファベットで示したもの）、また對句など字句の配置状況及び前後のつながりにより、さらに文を分けた（第二欄・數字で示したもの）ものである。章の區切り方は郭化若氏『孫子譯注』（上海古籍出版社、一九八四年）、楊丙安氏『孫子十一家注校理』（中華書局、一九九九年）を參考にした。

二、文の構成と竹簡との異同状況を分かりやすくするために、對になっている句は出來る限り横に並べて表示した。

三、第三欄「現行本」は底本に平津館叢書本『魏武帝註孫子』（『孫子集成』齊魯書社、一九九三年所收本）を使用した。

四、また第三欄では、東京靜嘉堂文庫藏本『武經七書』（同前『孫子集成』所收の『續古逸叢書』影印本）との異同箇所を、異字は〇、缺字は（）、增補は◁で示した。上海圖書館藏本『宋本十一家注孫子』（同前『孫子集成』所收の中華書局影印本）との異同箇所を、異字は□、缺字は〔〕、增補は◀で示した。

五、第四欄「竹簡」は、簡の配次はすべて文物出版社一九八五年本『銀雀山漢墓竹簡〔壹〕』に從い、數字は簡番號、小文字アルファベットは、銀雀山漢墓竹簡整理小組が同一の簡だと判斷し組み合わせて並べた斷片に付けたものを表記した。斷片の區切りは〰で、簡の區切りは‖で示した。

六、また第四欄「竹簡」の文字は、『銀雀山漢墓竹簡〔壹〕』の摹本を參考にし、判讀できない文字は□で表し（整理小組が推測しているものは注記した）、古體字や假字と思われる字でも改めなかった。現行本との異同は、缺佚部分は■、異なる部分は**ゴシック體**で、現行本に有って竹簡に無い字は【】で示した。

七、第五欄「内容」には、各章の内容を要約して示した。

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（1の背に「計」の篇題有り）	内容
A	1	孫子曰、兵者、國之大事、 死生之地、 存亡之道、不可不察也。	■曰、兵者、國之大事也、 死生之地、1a 存亡之道、不可不察也。1b	兵とは國の大事である
B	2	故經之以五事、 校之以計、　而索其情。 一曰道、二曰天、三曰地、四曰將、五曰法。 道者、令民與上同意、◀ ◀可◀與之死、可與之生、而不畏危〔也〕。 天者、陰陽寒暑時制也。 地者、遠近險易廣狹死生也。 將者、智信仁勇嚴也。 法者、曲制官道主用也。 凡此五者、將莫不聞、知之者勝、 不知者不勝。 故校之以計、而索其情。 曰、主孰有道、 將孰有能、 天地孰得、 法令孰行、 兵衆孰(強)、 士卒孰練、 賞罰孰明、　吾以此知勝負矣。	故**輕**之以五【事、 **效**之以計、　**以**索**亡請**。※ ※亡は其に改めない。以下同じ 一曰道、二1c曰天、三曰地、四2a曰將、五曰法。 道者、令民與上同意**者也**、 **故**可與2b之死、可與之生、**民弗詭**也。 天者、陰陽寒2c暑時3a制也。**順逆兵勝也**。 地者、**高下**(遠近)(險易)(廣狹)死生也。 將者、**知**3b ■曲制3c官道主用也。 凡此五者、4■ ■ ■ ■孰【有】能、 天地孰得、 ■法5a■ ■孰強、 士卒孰練、 賞**訓**孰明、　吾以此知勝5b■	勝敗を計る要素
C	3	將聽吾計、用之必勝、留之。 將不聽吾計、用之必敗、去之。	■計、用之必勝、5c■	計を用いられるのなら留まる
D	4	計利以聽、乃爲之勢、以佐其外。 勢者、因利而制權也。	■ ■	勢を計の佐けとする
E	5	兵者、詭道也。	■	兵とは詭道である
F	6	故能而示之不能、　近而示之遠、 用而示之不用、　遠而示之近。	■近而**視**之遠、※重文記號があった可能性あり 用而**視**之不用、　(遠?※)而**視**6a之近。□	敵に偽りを示す
G	7	利而誘之、　卑而驕之、 亂而取之、　佚而勞之、 實而備之、　親而離之。 (強)而避之、 怒而撓之、	利而誘之、 亂而取之、 ※□6b■之、 【親】【佚】【卑】 【而】【而】【而】 【離】【勞】【驕】 【之】【之】【之】。 強而6c□之、 6d怒而**譊**之、 ※整理小組は「實」とする	敵を動かす
H	8	攻其無備、出其不意。	攻7a**六**■□※、 出7b**六**■ ※整理小組は「備」とする	敵の虚を突く
I	9	此兵家之勝、不可先傳也。	■□※、不7c可■ ※整理小組は「勝」とする	兵家のやり方は伝えられない
J	10	夫未戰而廟筭勝者、得筭多也。 未戰而廟筭不勝者、得筭少也。 多筭勝、少筭不勝、而況於無筭乎。 吾以此觀之、勝負見矣。	■□※勝者、7d■ 筭少8a 少□□□無筭8b■ ■此觀8c■ ※整理小組は「筭」とする	廟算して算の多いものが勝つ

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（9の背に「作戰」の篇題有り）	内容
A	1	孫子曰、凡用兵之法、馳車千駟、◀内外之費、革車千乘、賓客之用、帶甲十萬。膠漆之材、千里饋糧、車甲之奉、日費千金、然後十萬之師舉矣。	孫子曰、凡用兵之法、馳□千駟9a乘、帶甲9b里而饋9c糧、則内外9d車甲之奉、日□□□、10a内	兵には費用がかかる
B	2	其用戰也勝、久則鈍兵挫鋭、攻城則力屈、久暴師則國用不足。夫鈍兵挫鋭、屈力殫貨、則諸侯乘其弊而起、雖有智者、不能善其後矣。	用戰【也】勝、久則10b頓兵挫鋭、屈力殫貨、則諸侯乘其弊而起、雖【有】知者、不能11善其後矣。	持久戰の害
B	3	故兵聞拙速、未覩巧之久也。夫兵久而國利者、未之有也。	12a故兵聞拙速、未覩巧之久也。夫兵久而國利者、未【之】有也。	持久戰の害
C	4	故不盡知用兵之害者、則不能盡知用兵之利也。	故不盡於知用兵12b之害者、則不能盡知用兵之利也。	兵の利害を知るべき
D	5	善用兵者、役不再籍、糧不三載、取用於國、因糧於敵、故軍食可足也。	饉於敵、13a食可足也。	食糧は現地で調達する
E	6	國之貧於師者遠輸、遠輸則百姓貧、近◀師者貴賣、貴賣則百姓財竭、財竭則急於丘役。	國13b之貧於師者遠者遠輸、※（遠者遠輸？）則百姓14a貧、14b近市者14c貴□、※（貴□？）□□□則□及【於】丘役。	遠征すると費用がかかる
F	7	力屈(財)(殫)、中原内虛於家。百姓之費、十去其七。公家之費、破車罷馬、甲冑矢弓、戟楯矛櫓、丘牛大車、十去其六。	(力)(屈)【財】【殫】、14d中原内虛於家。14e百費、十去二六。15	貧困の害
G	8	故智將務食於敵、食敵一鍾、當吾二十鍾、萁秆一石、當吾二十石。	石。	食糧は現地で調達する
H	9	故殺敵者、怒也、取敵之利者、貨也。	故殺16適	兵の原動力
I	10	◀車戰得車十乘以上、賞其先得者、而更其旌旗、車雜而乘之、卒善而養之、是謂勝敵而益強。	車17a戰※□共而養之、17b是胃勝敵而益17c強。※整理小組は「卒」とする	敵の車や捕虜も使用
J	11	故兵貴勝、不貴久。	18故	持久戰は避ける
K	12	故知兵之將、◀民之司命、國家安危之主也。		兵を知る將は重要である

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（篇題無し）	内容
A	1	孫子曰、夫用兵之法、全國爲上、破國次之、全軍爲上、破軍次之、全旅爲上、破旅次之、全卒爲上、破卒次之、全伍爲上、破伍次之。	破19伍	戰わずに敵を屈するのが善の善
A	2	是故百戰百勝、非善之善者也。不戰而屈人之兵、善之善者也。		
B	3	故上兵伐謀、其次伐交、其次伐兵、其下攻城。攻城之法、爲不得已。	其下攻城。攻城之法、【爲】【不】【得】【已】。	攻城は已を得ないとき
C	4	修櫓轒轀、具器械、三月而後成。距堙、又三月而後已。將不勝其忿而蟻附之、殺士〔卒〕三分之一、而城不拔者、此攻之災也。	修櫓20 三月而【後】21a止。距閒、有三月然21b 城不21c 戈也。	攻城の害
D	5	故善用兵者、屈人之兵、而非戰也、拔人之城、而非攻也、毀人之國、而非久也。必以全爭於天下、故兵不頓、而利可全、此謀攻之法也。	故善用兵22a者、詘人之兵、而非22b戰也、拔人22c之 而非攻也、破人之國、而非22d 天下、故22e 而利可23a	戰上手は戰わずに敵を屈する
E	6	(故)用兵之法、十則圍之、敵則能戰之、五則攻之、少則能逃之、倍則分之、不若則能避之。故小敵之堅、大敵之擒也。	戰之、23b	敵味方の數による對處
F	7	夫將者、國之輔也、輔周則國必強、輔隙則國必弱。		將は國の輔である
G	8	故君之所以患於軍者三。不知軍之不可以進、而謂之進。不知軍之不可以退、而謂之退。是謂縻軍。不知三軍之事、而同三軍之政、則軍士惑矣。不知三軍之權、而同三軍之任、則軍士疑矣。三軍既惑且疑、則諸侯之難至矣、是謂亂軍引勝。	以患【於】24軍 是謂縻軍。※三25軍 □疑、【則】諸侯26a之 ※整理小組は「知」とする	君主が軍にしてはならないこと
H	9	故知勝有五。知可以與戰不可以〔與〕戰者勝、識衆寡之用者勝、上下同欲者勝、以虞待不虞者勝、將能而君不御者勝。此五者、知勝之道也。	知可而與戰不可而【與】戰【者】勝、26b知衆 虞待27a不	勝敗を知る要素
I	10	故曰、知彼知己、百戰不殆。不知彼而知己、一勝一負。不知彼、不知己、每戰必敗。	故兵、知皮知己、27b百戰27c不	敵と味方を知ることが大切

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（甲）（28の背に「刑」の篇題有り）	内容
A	1	孫子曰、昔之善戰者、先爲不可勝、以待敵之可勝、不可勝在己、可勝在敵。故善戰者、能爲不可勝、不能使敵之〔必〕可勝。	●孫子曰、【昔】之善28a■勝、以待28b適之可勝28c不可勝在己、可勝在適。故善【戰】者、28d■使適【之】【必】可勝。	勝を決めるのは守と攻である
A	2	故曰、勝可知、而不可爲。	故曰、勝可智29a、■不可爲也29b。	
A	3	不可勝者、守也。可勝者、攻也。	不可勝【者】、守【也】。可勝【者】、攻也。	
A	4	守則不足、攻則有餘。	守則不足、攻則29c有餘。	
A	5	善守者、藏於九地之下、善攻者、動於九天之上。	昔善守者、30a藏■□※地之下、【善】【攻】【者】、30b動【於】九※整理小組は「九」とする	
A	6	故能自保而全勝也。	■	
A	7	見勝不過衆人之所知、非善之善者也。戰勝而天下曰善、非善之善者也。	■衆人之所知、非善30c■曰善、非□□也。	
B	8	故舉秋毫不爲多力、見日月不爲明目、聞雷霆不爲聰耳。	【故】31a舉■力、視日月不爲明目、聞雷霆不爲□※31b耳。※整理小組は「芯」とする	
B	9	古之所謂善戰者、勝於易勝者也。	【古】【之】所胃善【戰】者、勝【於】易32a勝者也。	勝者は先に勝つ立場にいる
C	10	故善戰者之勝也、無智名、無勇功。	故善【戰】者之戰、無奇32b■無智名、無勇功。	
C	11	故其戰勝不忒、不忒者、其所措勝、勝已敗者也。	故其【戰】勝不貸、不貸□※32c、■※整理小組は「者」とする	
C	12	故善戰者、立於不敗之地、而不失敵之敗也。	■	
C	13	是故勝兵先勝而後求戰、敗兵先戰而後求勝。	■□勝□後【求】戰、33a敗■而後求勝。	
D	14	善用兵者、修道而保法、故能爲勝敗之政。	故善【用】【兵】者、修道□□法、故能34a爲勝敗【之】正。34b	勝者は勝敗の決定權を握る
E	15	兵法、一曰度、地生度、二曰量、度生量、三曰數、量生數、四曰稱、數生稱、五曰勝。稱生勝。	【兵】法、一曰度、二曰量、三曰數、四曰稱、五曰勝。■■■34c地■生稱、※（稱？）35a生勝。※重文記號があった可能性あり	兵の勝敗の要素
F	16	故勝兵若以鎰稱銖、敗兵若以銖稱鎰。	【故】勝兵35b如以湍稱35c朱敗兵如以朱稱湍。	勝者は先に勝つ立場にいる
G	17	勝者之戰、若決積水於千仞之谿者、形也。	稱勝者【之】戰民也、如決35d積水於千36那■	勝者は形を利用する

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（乙）	内容
A	1	孫子曰、昔之善戰者、先爲不可勝、以待敵之可勝、不可勝在己、可勝在敵。故善戰者、能爲不可勝、不能使敵之〔必〕可勝。	37a勝而■適之可勝、不可勝在己、可勝在適。故善【戰】者、37b能爲不可勝38a■可勝。	勝を決めるのは守と攻である
A	2	故曰、勝可知、而不可爲。	38b故■	
A	3	不可勝者、守也。可勝者、攻也。	■■也。	
A	4	守則不足、攻則有餘。	守則不足、39a攻則有餘。	
A	5	善守者、藏於九地之下、善攻者、動於九天之上。	昔善守者、39b藏■□※地之下、【善】【攻】【者】、動【於】九天之上。※整理小組は「九」とする	
A	6	故能自保而全勝也。	39c故□※自葆而39d□※※整理小組は「能」「全」とする	
B	7	見勝不過衆人之所知、非善之善者也。戰勝而天下曰善、非善之善者也。	40a見勝■□※衆人40b之所智、非【善】【之】善者也。戰勝而天下曰善、40c■※整理小組は「過」とする	
B	8	故舉秋毫不爲多力、見日月不爲明目、聞雷霆不爲聰耳。	■■■	
B	9	古之所謂善戰者、勝於易勝者也。	■易勝者也。	勝者は先に勝つ立場にいる
C	10	故善戰者之勝也、無智名、無勇功。	故□※41■奇勝、無智名、42a無■功。※整理小組は「善」とする	
C	11	故其戰勝不忒、不忒者、其所措勝、勝已敗者也。	故其【戰】勝不貸、不貸者、其所42b錯■勝【已】敗者也。	
C	12	故善戰者、立於不敗之地、而不失敵之敗也。	【故】善42c■■■	
C	13	是故勝兵先勝而後求戰、敗兵先戰而後求勝。	■勝43兵■■	
D	14	善用兵者、修道而保法、故能爲勝敗之政。	■■■敗【之】正。	勝者は勝敗の決定權を握る
E	15	兵法、一曰度、地生度、二曰量、度生量、三曰數、量生數、四曰稱、數生稱、五曰勝。稱生勝。	【兵】法、一曰度、二曰量、44a三曰數、四44b■■■生勝。	兵の勝敗の要素
F	16	故勝兵若以鎰稱銖、敗兵若以銖稱鎰。	【故】勝兵45a如以洫稱朱、敗兵如以朱稱洫。	勝者は先に勝つ立場にいる
G	17	勝者之戰、若決積水於千仞之谿者、形也。	45b稱■者【之】戰民也、如決積45c■那之墠【者】、刑也。46	勝者は形を利用する

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（47の背に「埶」の篇題有り）	内容
A	1	孫子曰、凡治衆如治寡、分數是也。 鬪衆如鬪寡、形名是也。 三軍之衆、可使必受敵而無敗者、奇正是也。 兵之所加、如以碫投卵者、虛實是也。	●【孫】【子】【曰】、【凡】治衆如治寡、分數是【也】。 47a 47b 鬪衆 可使畢受適而无敗【者】、□正 47c 如以段 48a	兵の要素の説明
B	2	凡戰者、以正合、以奇勝。		戰には正と奇を使う
C	3	故善出奇者、無窮如天地、 不竭如江海。	窮如天地、 无竭 48b 如河海。	奇と正の形容
	4	終而復始、日月是也。 死而更生、四時是也。 聲不過五、五聲之變、不可勝聽也。 色不過五、五色之變、不可勝觀也。 味不過五、五味之變、不可勝嘗也。 戰勢不過奇正、奇正之變、不可勝窮也。	冬而復始、日月是 48c 變、不 49a 之變、不可勝窮 49b 也。	
	5	奇正相生、如循環之無端、孰能窮之〔哉〕。	奇正環 49c 相生、如【循】環之毋端、孰能窮之【哉】。	
D	6	激水之疾、至於漂石者、勢也。 鷙鳥之疾、至於毀折者、節也。	【激】水之疾、至 49d	勢と節の説明
E	7	◀故善戰者、其勢險、其節短。		勢と節について
F	8	勢如彍弩、 節如發機。		勢と節の説明
G	9	紛紛紜紜、鬪亂、而不可亂。◀ 渾渾沌沌、形圓、而不可敗。	可敗。	混亂してはいけない
H	10	亂生於治、治亂、數也。 怯生於勇、勇怯、勢也。 弱生於強。強弱、形也。	亂生於治、治亂、數也。 50a 脅生於悳、悳脅、埶也。 弱生於強。 50b 強 也。	混乱の要素
I	11	故善動敵者、形之、敵必從之。 予之、敵必取之。	【故】善動適 51a 者、形之、適必從之 51b 取之。	敵を動かす
	12	以利動之、 以本待之。	以此動之、 以卒侍之。 51c	
J	13	故善戰者、求之於勢、不責於人、故能擇人而任勢。	故善戰者、求之於埶、弗責於 51d	勢を兵に利用する
	14	任勢者、其戰人也、如轉木石、 木石之性、安則靜、 危則動、 方則止、 圓則行。 故善戰人之勢、如轉圓石於千仞之山者、勢也。	木石、 木石之生、安□ 52a ※靜、 危則動、 方則 52b ※整理小組は「則」とする	

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（53の背に「實虛」の篇題有り）	内容
A	1	孫子曰、凡先處戰地而待敵者佚、後處戰地而趨戰者勞。	【孫】【子】【曰】、【凡】先處戰地而侍戰者失、53a 後處戰地而趨戰者勞。53b	戰地に先に着いた方が有利
B	2	故善戰者、致人而不致於人。	故善戰者、致人而不53c人。	人を動かし人に動かされない
C	3	能使敵人自至者、利之也。能使敵人不得至者、害之也。	能使53d適至者、53e利之也。能使□54a※ ※整理小組は「適」とする	敵を動かすのは利害による
D	4	故敵佚能勞之、飽能飢之、安能動之。	能勞之、飽能飢之者、【安】【能】【動】【之】。	敵を動かす
E	5	出其所不趨、行千里而不勞者、趨其所不意。行於無人之地也。	出於亡所必54b行千里而不畏54c行【於】无人之地也。	敵の虛を突く
F	6	攻而必取者、攻其所不守也。守而必固者、守其所不攻也。	攻而必55a守而必固【者】、守亡所必55b所不守也。	敵の知らないところを攻める守る
	7	故善攻者、敵不知其所守。善守者、敵不知其所攻。	者、適不知【其】所守。55d善守者、55e適不知□56a	
G	8	微乎微乎、至於無形。神乎神乎、至於無聲、故能爲敵之司命。	故能爲適【之】司命。	敵の司命になる
H	9	進而不可禦者、衝其虛也。退而不可追者、速而不可及也。	進【而】不可迎者、56b□※可止者、56c遠 ※整理小組は「衝」とする	主導權を握る攻守の在り方
	10	故我欲戰、敵雖高壘深溝、不得不與我戰者、攻其所必救也。我不欲戰、〔雖〕畫地而守之、敵不得與我戰者、乖其所之也。	之、適不得與我戰者、膠亡所之也。58a 適不得不57a者、攻亡所57b	
I	11	故形人而我無形、則我專而敵分。我專爲一、敵分爲十、是以十攻其一也。	故善將者刑人58b而【我】无刑、58c專而適分。我專而爲壹、適分而爲58d十、是以十擊【其】壹也。	無形ならば敵を分けられる
J	12	則我衆▶敵寡、能以衆擊寡、▶則吾之所與戰者、約矣。吾所與戰之地不可知、不可知、則敵所備者多。敵所備者多、則吾所與戰者、寡矣。	【則】我衆而適寡、能以衆擊寡。59a 地不可知、【不】【可】【知】、則適之所備者多。【敵】所備者多、59b則【吾】所【與】戰者、寡矣。	戰地を知らなければ分けられてしまう
	13	故備前則後寡、備後則前寡、備左則右寡、備右則左寡。	【故】備前60a則無所不寡。【則】无【所】不寡。者右寡。	
	14	寡者、備人者也。衆者、使人備己者也。	寡60b者、備60c衆者、使人備己者也。	
K	15	故知戰之地、知戰之日、則可千里而會戰。不知戰地、不知戰日、則左不能救右、右不能救左、前不能救後、後不能救前、而況遠者數十里、近者數里乎。	【故】60e知戰之地、知戰之日、61a不知戰之日、地、【則】【可】千里而【會】戰。61b【則】左不能救右、不能救左、前不能救後、後不能救前、【而】皇遠者數十里、近者數62a里。	戰地と戰日を知るべきである
L	16	以吾度之、越人之兵雖多、亦奚益於勝哉。▶	勝戈。	越兵が多くても勝てる
M	17	故曰、勝可爲也。	故曰、勝可62b擅也。	勝は爲ることができる
N	18	敵雖衆、可使無鬬。	適63a唯衆、可【使】毋斲也。	敵が多くても勝てる
O	19	故策之而知得失之計、作之而知動靜之理、形之而知死生之地、角之而知有餘不足之處。	故計63c之、得失之□、績之而知動63b、死生之地、□63d之餘不足之□。	兵に必要な知識

Ritsumeikan University

	P				Q		
	20	21	22	23	24	25	26
	故形兵之極、至於無形。 無形、則深間不能窺、 智者不能謀。	因形而措勝於衆、衆不能知。	人皆知我所以勝之形、 而莫知吾所以制勝之形。	故其戰勝不復、而應形於無窮。	夫兵形象水、水之形、避高而趨下、 兵之形、避實而擊虛。 水因地而制流、 兵因敵而制勝。	故兵無常勢、 水無常形。 能因敵變化而取勝者、謂之神。	故五行無常勝、日有短長、 四時無常位、月有死生。
	【故】刑兵之極、至於无刑。 ※(无刑?)、則深間弗能規也。 知者弗能謀也。 ※重文記號があった可能性あり	因刑而錯勝	【而】不[illegible]制刑所以勝者、 [illegible]	[illegible]	[illegible]兵刑象水、水行形、辟高而走下、 兵勝形、辟實而擊虛。 故水因地而制行、 兵因敵而制勝。	【故】兵无成埶、 【水】无恒刑。 能與敵【變】化【而】【取】【勝】【者】、胃之神。	【故】五行无恒勝、日有短長、 四時[illegible]常立、月有死生。●神要
	兵の形の極は、無形で人にはわからない				無形は窮りが無い		

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（篇題無し）	内容
A	1	孫子曰、凡用兵之法、將受命於君、合軍聚衆、交和而舍、莫難於軍爭。軍爭之難者、以迂爲直、以患爲利。故迂其途、而誘之以利、後人發、先人至、此知迂直之計者也。	■■■以□爲直、■■而誘之68b 以患68a 後人發、先人至69a 者、【此】知汙直之計者也。	機先を制するのは迂直の計である
B	2	◀軍爭爲利、衆爭爲危。	軍爭爲利、軍爭69b ■危。	機先を制することの難しさ
	3	舉軍而爭利、則不及。委軍而爭利、則輜重捐。是故卷甲而趨、日夜不處、倍道兼行、百里而爭利、則擒三將軍、勁者先、疲者後、其法十一而至。五十里而爭利、則蹶上將軍、其法半至。三十里而爭利、則三分之二至。	舉軍69c 而爭利、則□69d 不及。委軍69e 而■利、則輜重捐。是故■甲70a 而趨利70b 處、■倍70c ■■■

附表一〇

	H		I
	12	13	14
	以治待亂、 以靜待譁、此治心者也。 以近待遠、 以佚待勞、 以飽待飢、此治力者也。	無邀正正之旗、 勿擊堂堂之陣、此治變者也。	故用兵之法、高陵勿向、 背丘勿逆、 佯北勿從、 銳卒勿攻、 餌兵勿食、 歸師勿遏、 圍師必闕、 窮寇勿迫、此用兵之法也。
	[redacted] [redacted] 遠、 79c以失[redacted]勞、 以飽待飢、此治力□也。	毋要癰癰之旗、 毋擊堂堂之陣、此治變者 80[redacted]	[redacted] 倍丘勿迎、 詳北勿從、 【銳】【卒】【勿】【攻】、 【餌】【兵】【勿】【食】、 歸師勿謁、 圍師遺闕、 【窮】【寇】【勿】【迫】、此用衆之法也。四百六十 81五
	心・力・變を治める		地に對する對處

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（篇題無し）	内容
A	1	孫子曰、凡用兵之法、將受命於君、合軍聚衆、 圮地無舍、 衢地合交、 絶地無留、 圍地則謀、 死地則戰。	■ ■ ■82a瞿地 ■ ■地則戰。82b	地に對する對處
B	2	途有所不由、 軍有所不擊、 城有所不攻、 地有所不爭、 君命有所不受。	■ ■ ■ ■ ■地有所不爭83a	臨機應變に對處する
C	3	故將通於九變之利者、知用兵矣。 將不通九變之利、雖知地形、不能得地之利矣。 治兵不知九變之術、雖知五利、不能得人之用矣。	■ ■ ■83b於九 ■ ■ ■ ■

章	文	現行本	竹簡（篇題無し）	内容
A	1	孫子曰、凡處軍相敵、絶山依谷、視生處高、戰隆無登、此處山之軍也。	■處高、戰降毋登89a■處山之89b■	駐屯地に對する注意
A	2	絶水必遠水。	■	
A	3	客絶水而來、勿迎之於水内、令半渡而擊之、利。	■	
A	4	欲戰者、無附於水而迎客。	■	
A	5	視生處高、無迎水流、此處水上之軍也。	■此處水上之軍90a■	
A	6	絶斥澤、唯亟去無留。	■	
A	7	若交軍於斥澤之中、必依水草、而背衆樹、此處斥澤之軍也。	■交軍【於】沂澤之中、【必】依90b■	
A	8	平陸處易、右背高、前死後生、此處平陸之軍也。	■死後生、此處【平】91陸■	
A	9	凡四軍之利、黄帝之所以勝四帝也。	凡四軍之利、黄帝之92之■	
B	10	凡軍好高而惡下、貴陽而賤陰、養生處實、軍無百疾、是謂必勝。	■无百疾93a【是】【謂】【必】【勝】。■	駐屯地にするべき地
B	11	丘陵隄防、必處其陽、而右背之、此兵之利、地之助也。	丘陵隄93b■處亡陽、而右倍之93c、此兵之利、地之助也。	
C	12	上雨水沫至、欲涉者、待其定也。	上雨水水流至、93d止涉【者】、待亡定93e■	雨の時は水が定まってから渡る
D	13	凡地有絶澗・天井・天牢・天羅・天陷・天隙、必亟去之、勿近也。吾遠之、敵近之。吾迎之、敵背之。	■天井・天窨・天離・天翹・天郄、必亟去之、勿94a■遠之、敵近之。94b吾■	危險な地形
E	14	軍旁有險阻、泓井、蒹葭、林木、翳薈者、必謹覆索之、此伏姦之所也。	■葦、小林、翳澮【者】、可伏匿者【必】謹復索之、【此】【伏】姦之所處也。	茂みや森には氣をつける
F	15	近而靜者、恃其險也。遠而挑戰者、欲人之進也。	敵近而□者、恃亡險也。敵95遠■進者【也】。	敵の様子で意圖を察する
F	16	其所居易者、利也。	亡所居易者96■	
G	17	衆樹動者、來也。衆草多障者、疑也。鳥起者、伏也。獸駭者、覆也。塵高而銳者、車來也。卑而廣者、徒來也。散而條達者、樵採也。少而往來者、營軍也。	■軍者也。■	周圍の状況から敵の動きを察する
H	18	辭卑而益備者、進也。辭強而進驅者、退也。輕車先出居其側者、陳也。無約而請和者、謀也。奔走而陳兵者、期也。半進半退者、誘也。	□庫而益97a備者、進也。辭強而97b■歐者、退也。輕車先出居【其】廁97c者、■請和98a者、謀也。奔走而陳兵者、期也。半進98b【半】【退】者、誘也。	敵の様子で意圖を察する

Ritsumeikan University

| | | |

地形第十　※銀雀山の竹簡は發見されていない。

章	文	現行本（竹簡無し）	内容
A	1	孫子曰、地形有通者、有掛者、有支者、有隘者、有險者、有遠者。 我可以往、 彼可以來、曰通。　通形者、先居高陽、利糧道、以戰則利。 可以往、 難以返、曰掛。　掛形者、敵無備、出而勝之。 敵若有備、出而不勝、難以返、不利。 我出而不利、 彼出而不利、曰支。支形者、敵雖利我、我無出也。引而去之、令敵半出而擊之、利。 隘形者、我先居之、必盈之以待敵。 若敵先居之、盈而勿從、不盈而從之。 險形者、我先居之、必居高陽以待敵。 若敵先居之、引而去之、勿從也。 遠形者、勢均、難以挑戰、戰而不利。　凡此六者、地之道也、將之至任、不可不察也。	地形の種類と對應
B	2	故兵有走者、有弛者、有陷者、有崩者、有亂者、有北者。 凡此六者、非天〔地〕之災、將之過也。 夫勢均、以一擊十、曰走。 卒強吏弱、曰弛。　將弱不嚴、 吏強卒弱、曰陷。　教道不明、 大吏怒而不服、　吏卒無常、 遇敵懟而自戰、將不知其能、曰崩。　陳兵縱橫、曰亂。　以弱擊強、 凡此六者、敗之道也、將之至任、不可不察也。　兵無選鋒、曰北。	軍隊が陥る惡い状況
C	3	夫地形者、兵之助也。	地形を兵の助けとして勝を制する
	4	料敵制勝、計險阨遠近、上將之道也。	
	5	知此而用戰者必勝。 不知此而用戰者必敗。	
D	6	故戰道必勝、主曰無戰、必戰可也。 戰道不勝、主曰必戰、無戰可也。	君主の命令に逆らっても良い時がある
E	7	故進不求名、 退不避罪、 唯民是保、 而利於主、國之寶也。	このような將は國の寶である
F	8	視卒如嬰兒、故可與之赴深谿。 視卒如愛子、故可與之俱死。	兵卒への接し方
	9	愛而不能令、 厚而不能使、 亂而不能治、譬如驕子、不可用也。	
G	10	知吾卒之可以擊、而不知敵之不可擊、勝之半也。 知敵之可擊、而不知吾卒之不可以擊、勝之半也。 知敵之可擊、知吾卒之可以擊、而不知地形之不可以戰、勝之半也。	敵と味方を知るものが勝つ
H	11	故知兵者、動而不迷、 舉而不窮。	兵を知る者は迷わない
I	12	故曰、知彼知己、勝乃不殆。 知天知地、勝乃可全。	敵と味方を知ることが重要

附表一四

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（篇題無し）	内容
A	1	孫子曰、用兵之法、有散地、有輕地、有爭地、有交地、有衢地、有重地、有圮地、有圍地、有死地。 諸侯自戰其地〔者〕、爲散地。 入人之地而不深者、爲輕地。 我得亦利、彼得亦利者、爲爭地。 我可以往、 彼可以來者、爲交地。 諸侯之地三屬、先至而得天下之衆者、爲衢地。 入人之地深、背城邑多者、爲重地。 ◀山林險阻沮澤、凡難行之道者、爲圮地。 所由入者隘、 所從歸者迂、彼寡可以擊吾之衆者、爲圍地。 疾戰則存、不疾戰則亡者、爲死地。 是故散地則無戰、 輕地則無止、 爭地則無攻、 交地則無絶、 衢地則合交、 重地則掠、 圮地則行、 圍地則謀、 死地則戰。	地、有輕地、有爭地、有交地、 有瞿地、有重地、有泛地、□□地、有死地。 諸侯【自戰】地【者、爲散	戰地の種類と對處
B	2	◀古之善用兵者、能使敵人前後不相及、卒離而不集、兵合而不齊。 衆寡不相恃、 貴賤不相救、 合於利而動、 上下不相收、 不合於利而止。	古之【善戰者、能使適人前後不相及也、 所胃 適衆以正【而】將來、侍之何。	敵を動かす
C	3	敢問、敵衆整而將來、待之若何。 曰、先奪其所愛、則聽矣。	曰、【先奪聽	敵が大軍である場合の對處
D	4	兵之情主速、乘人之不及、 由不虞之道、 攻其所不戒也。	之情主數也、乘人之不給也、	兵とはこう動くべきものである
E	5	凡爲客之道、深入則專、主人不克。 掠於饒野、三軍足食。	食。	敵國で戰う場合
	6	謹養而勿勞、并氣積力。運兵計謀、爲不可測。	謹養而勿勞、并謀、爲不可賊。	
F	7	投之無所往、死且不北、死焉不得、士人盡力。	投之毋所往、死且不北、死焉	兵卒を戰わせる
	8	兵士甚陷則不懼、 無所往則固、 入深則拘、 不得已則鬬。	無所往則 所往則鬬。	
	9	是故、其兵不修而戒、 不求而得、 不約而親、 不令而信。	是故、【其】【兵】不調而戒、 不	
	10	禁祥去疑、至死無所之。		
	11	吾士無餘財、非惡貨也。 無餘命、非惡壽也。	非惡貨也。 無餘死、非惡壽也。	
	12	令發之日、士卒坐者涕霑襟、 偃臥者涕交頤。	令發 士卒【坐者涕□□、 【偃臥	
	13	投之無所往、◀諸歲之勇也。	投之無所往者、諸歲之勇也。	

Ritsumeikan University

| | | |

	M				N				O	P
	27	28	29		30	31	32	33	34	35
	四五者一不知、非霸王之兵也。	夫霸王之兵、伐大國、則其衆不得聚。 威加於敵、則其交不得合。	是故不爭天下之交、 不養天下之權、 信己之私、 威加於敵、 故其城可拔、 其國可墮。		施無法之賞、 懸無政之令、 犯三軍之衆、若使一人。	犯之以事、勿告以言。 犯之以利、勿告以害。	投之亡地然後存、 陷之死地然後生。	夫衆陷於害、然後能爲勝敗。	故爲兵之事、在順詳敵之意、 并敵一向、 千里殺將。是謂巧能成事。	是故政舉之日、夷關折符、無通其使、 厲於廊廟之上、以誅其事、 敵人開闔、必亟入之、 先其所愛、微與之期、 踐墨隨敵、以決戰事。 是故始如處女、敵人開戸。 後如脫兔、敵不及拒。
	四五者一不**智**、非霸王之兵也。	**彼**霸王之兵、伐大國、則**二六衆**不128[redacted] [redacted]則**二六**交不□合。	是故不129[redacted] [redacted]可拔**也**、 【其】**城**可**隋也**。		【施】**无**法之賞、 【懸】無**正**之令、犯三130[redacted]	[redacted] [redacted]以利、勿告以害。	131a陷[redacted] **芋**之亡地然**而后**存、 [redacted]	[redacted]於害、然**后**能爲【勝】敗。	【故】131b爲[redacted] [redacted]□將。**此胃**巧【能】【成】事。	是故**正與**132□[redacted]其使、 厲於**郎**【廟】【之】上、以誅**二六**事、 **適**人開闔、必亟入之、 先**二六**所愛、**徹**與[redacted]133決戰事。 是故始如134處[redacted]
	霸王の兵 （理想の兵）				兵卒を戰わせる				兵の行動	開戰にあたってすること

附表一七

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（135の背に「火攻」の篇題有り）	内容
A	1	孫子曰、凡火攻有五。 一曰火人、二曰火積、三曰火輜、四曰火庫、五曰火隊。	孫子曰、凡火攻有五。 一曰火人、二曰火積、三曰火輜、四曰火庫、五曰火[135b]■	火攻の種類
B	2	行火必有因、　發火有時、 煙火必素具。　起火有日。 時者、天之燥也。 日者、月在箕壁翼軫也。凡此四宿者、風起之日也。	■火【必】有因、　發火有時、 因【火】必素具。　起火有日。[135c] 時者、天[136a]■ ■【四宿】者、風起之日也。	火攻の準備
C	3	凡火攻、必因五火之變而應之。	【凡】【火】【攻】、【必】【因】【五】【火】【之】【變】【而】【應】【之】。	火攻の仕方について
	4	火發於內、則早應之於外。 火發〔而〕〔其〕兵靜者、待而勿攻。 極其火力、可從而從之、 不可從則止。 火可發於外、無待於內、以時發之。	火發[136b]■ 火發【而】【其】[137a]兵靜【者】、【待】而勿攻。 極其火央、可從而從[137b]■ ■止之。 火可發於外、毋寺[137c]於內、以時發之。	
	5	火發上風、　晝風久、 無攻下風、　夜風止。	火發[137d]上風、■久、 毋攻[138a]■　夜風止。[138b]	
	6	凡軍必知五火之變、以數守之。	■之變、以數守之。[138c]	
D	7	故以火佐攻者明、 以水佐攻者強、 水可以絕、 不可以奪。	故以火佐攻者明、 以水佐攻者強、 水可[138d]■	火攻の利点
E	8	夫戰勝攻取、而不修其功者凶、命曰費留。	■得、【而】不隋其功者凶、命之[139a]曰費留。	功の無い勝は意味が無い
F	9	故曰、明主慮之、 良將修之。 非利不動、 非得不用、 非危不戰。 主不可以怒而興師、 將不可以慍而致戰。 合於利而動、 不合於利而止。 怒可以復喜、 慍可以復〔說〕、 亡國不可以復存、 死者不可以復生。 故明〔主〕愼之、 良將警之、此安國全軍之道也。	故曰、明主慮之、 良將隨之。 非利[139b]■ ■不用、 非危不戰。 主不[140a]可以怒【而】興軍、 將不可以[140b]溫【而】【致】戰。 合乎利而用、 不合【於】【利】而止。 怒可以【復】喜 溫可【以】【復】[141]■ ■也、[140c] ■ ■ ■	明君良將は慎重にするべきである

Ritsumeikan University

章	文	現行本	竹簡（篇題無し）	内容
A	1	孫子曰、凡興師十萬、 出征千里、 百姓之費、 公家之奉、日費千金。 内外騷動、 怠於道路、不得操事者、七十萬家。	孫子曰、142a凡 ■ 里、 百生之費142b ■ 142c日費千 ■	兵には費用がかかる
B	2	相守數年、以爭一日之勝、 而愛爵祿百金、不知敵之情者、不仁之至也、 非人之將也、 非主之佐也、 非勝之主也。	■ 知適之請者143a 不仁之至也、 143b非民之將也、 143c非主 ■ 之注也。	敵情を知らないものは勝てない
C	3	故明君賢將、所以動而勝人、 成功出於衆者、先知也。 先知者、不可取於鬼神、 不可象於事、 不可驗於度、 必取於人、知敵之情者也。	144a故 ■ 不可象144b 145a不可驗於度、 必取於人、知【敵】【之】【情】者【也】。	情報は人間から得る
D	4	故用間有五。 有因間、有内間、有反間、有死間、有生間。 五間俱起、莫知其道、是謂神紀、人君之寶也。 因間者、因其鄉人而用之。 内間者、因其官人而用之。 反間者、因其敵間而用之。 死間者、爲誑事於外、 令吾間知之、而傳於敵間也。 生間者、反報也。	故用間有五。 145c有 ■ 145b間、145d有内間、145e反間、有死間、有生間。145f 145g知二六神紀、人君之葆也。 ■ 鄉人而用者也。 内間者、因146b ■ 146c反 ■ 生間者、反報146a ■	間の種類
E	5	故三軍之事、莫親於間、 賞莫厚於間、 事莫密於間。 非聖智不能用間、 非仁義不能使間、 非微妙不能得間之實。	■ 三軍之親、莫親於間、147 賞莫厚於間、 148a事莫密於間。 148b非聖 ■ 149c非仁【義】不能使 ■ 之葆。	間の重要さ・難しさについて
	6	微哉微哉、無所不用間也。	密哉密哉、毋所不用間140a ■	
F	7	間事未發而先聞者、間與所告者皆死。	■ 事未發【而】【先】聞【者】、間149b ■	間を使う際の心得
	8	凡軍之所欲擊、 城之所欲攻、 人之所欲殺、 必先知其守將、左右謁者門者舍人之姓名、 令吾間必索知之。	■ 攻、 ■ 殺、 必先149c人 ■ 150a□二六 ■ 150b謁□※ ■ ※整理小組は「者」とする	
G	9	必索敵間之來間我者、 因而利之、 導而舍之、故反間可得而用也。 因是而知之、故鄉間可得而使也。 因是而知之、故死間爲誑事、可使告敵。 因是而知之、故生間可使如期。 五間之事、主必知之、知之必在於反間、 故反間不可不厚也。	■ 因是而知之、故鄉間内間可得而使也。151 ■ □※也。 ■ ■ ※□間之事、【主】必知之、152a ■ 152b可不厚也。 ※整理小組は「五」とする ■ 在夏。152c	間の使い方
H	10	昔殷之興也、伊摯在夏。 周之興也、呂牙在殷。	周之興也、呂牙在153a ■ 在夏。152c 衛師比在陸● 燕之興也、蘇秦在齊。	例
I	11	故明君賢將、能以上智爲間者、必成大功。 此兵之要、三軍所恃而動也。	唯明主153b賢將、153c ■	間は重要である

Ritsumeikan University